

平成 26 年度 地球環境基金助成事業・県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ実施報告書 (4)

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	第 4 回講義&フィールド研修 「森林・里山についての知識の修得 2」
日時	平成 26 年 9 月 6 日 (土) 9 : 10 ~ 16 : 30
場所	さわやかちば県民プラザ 中研修室 1
出席者	受講生
内容	<p>9 : 10 ~ 10 : 10 * 「行政から見た都市近郊の里山ボランティア活動」 講師 ; 千葉県森林課森林政策室 副主幹 澤口 晶子</p> <p>10 : 20 ~ 11 : 20 * 「森・樹木の診断と病害虫」 講師 ; 技術士 (森林部門) ・ 樹木医 石谷 栄次</p> <p>11 : 20 ~ 12 : 00 W. S. & 懇談会 : コーディネーター ; 副理事長 鈴木 恵子</p> <p>13 : 15 ~ 14 : 15 * 「千葉県の津波災害と再生」 講師 ; 千葉県森林組合連合会専務理事 梅山 雄二 里山活動団体の紹介 「一緒に里山ボランティア活動しませんか !」</p> <p>14 : 25 ~ 14 : 55 * NPO 法人ちば里山トラスト アシスタント講師 ; 事務局長 大久保 徹</p> <p>14 : 55 ~ 15 : 15 * 船橋里山の四季 アシスタント講師 ; 代表 古山 ひさし</p> <p>15 : 15 ~ 15 : 35 * いちかわ森の交流会 アシスタント講師 ; 代表 瀬谷 昭</p> <p>15 : 45 ~ 16 : 05 * 栗野の森の会 アシスタント講師 ; 代表 小出 達雄</p> <p>16 : 05 ~ 16 : 25 * 特非ちば森づくりの会 アシスタント講師 ; 理事長 林 隆通</p>
備考	<p>①澤口副主幹による「行政から見た都市近郊の里山ボランティア活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県の山は 1 番高い愛宕山でも海拔 400 メートル余りの低い山が多く、ほとんどが里山であるといってもよい。里山とは樹林のみではなく草地、湿地、谷津のような水辺、が一体となっているところである。砂利採取により 山が壊されたところが多いのが千葉県の特徴である。 ・里山条例についての話。現状説明。 ・第三次千葉県基本計画について一次・二次との違いを上げると、知事認定を受けていなくても支援の対象とする・東日本による海岸の保安林の被害があったことから海岸防災林再生も入れた・県が主体であったところを、市町村にかかわっていただいで地域でどうやって運営していくか、市町村の役割を増やした・また活動団体に対しては、整備や観察などに加えて地域の課題にどうやって取り組んでいくのか考えてもらうことを取り入れた。 <p>②石谷 栄次講師による「森・樹木の診断と病害虫」</p> <p>生物は多様 (動物は 100 万種・植物 30 万種・菌類無限) である。持ちつ持たれつ (食物連鎖)。 生物は常に変化する。森林は多様な生物が生活する場所である。 樹木を診断してその樹勢衰弱の兆候 (葉の変化・枝の変化) を見る。 松枯れの原因を虫が運んでいる。マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリが樹木の全体にひろがる。行政的施策は (被害木の伐採・搬出・殺虫剤の予防散布・線虫増殖抑制剤の予防施用・普及啓発活動) 最初に出会いがあってそれが経験になり、いつかそれが活きる。皆さんも森に入っているいろいろな経験してほしい。</p> <p>③ワークショップと懇談会 (自分の考えていることを表現する。) 鈴木恵子講師</p> <p>④梅山 雄二講師による「千葉県の津波災害と再生」</p> <p>東日本災害時に千葉県においても津波の被害があった。津波が千葉県に達した際に災害ヘリが</p>

撮影した映像を見た。海岸防災林が大きな被害を受けた様子とその再生について講義があった。現在取り組んでいる整備指針は①津波に対する減殺効果を考慮した機能強化②広域的に防災機能を発揮させる海岸線に沿った連続性を持たせる。③工法あるいは他所管施設との組み合わせによる多重防除とする。引き続き今後の整備計画等の話があった。

「みんなの力で九十九里の海岸県有保安林の再生・整備を進めましょう」と呼びかけられた。

③次に核活動団体の代表による活動紹介があった。(詳細略)

添付資料 (写真)



澤口講師による講義



石谷講師



鈴木講師



ワークショップ



梅山講師



千葉県の津波被害と再生



団体活動紹介



団体活動紹介



団体活動紹介



団体活動紹介



団体活動紹介



団体活動紹介